

安全性を考慮した糖尿病治療薬の選択と使用法について

～あなたの手渡したお薬が安全に使われるために～

平成 27 年 6 月 24 日 19 時～20 時 30 分 福島テルサ

研修委員 馬場圭一郎

年々その分母が増大する糖尿病の「安全な」薬物療法について済生会福島病院の仲野淳子医師のご講演をレポートします。

保険薬局薬剤師が抱える疑問に対して、「処方意図が分かるように」という観点からのお話は講師の実体験や症例の提示が多く、非常に分かりやすいお話でした。

糖尿病は合併症に限らず様々な疾患の原因となり得る危険因子である事を認識している薬剤師は多いと思います。しかし薬物治療における相互作用や禁忌に関して基本的なチェック体制（お薬手帳を用いた）に疑問符をつけられた気がします。一方で講師が薬局薬剤師に対しての期待の大きさも感じる注文事項もありました。

筆者の個人的な感想ですが、講師の言葉がとてもストレートなので気持ちよく襟を正す機会にもなりました。

講演後の会場からの質疑はスタチン系薬剤による高血糖の誘発はあるのか、フットケアなどの創傷自己治療、自己血糖測定（SMBG）のタイミングが挙がりました。

スタチン系薬剤による血糖上昇に関しては、講師は経験したことは無いとの事でした。フットケアに関しては、基本的には自己治療は注意して頂く必要性が有り、主治医への報告が重要になるようです。SMBG に関しては、患者本人が気にしている食べ物を食べたとき、具合が悪い時、食前食後 2 時間経過した時点での血糖値が医師には参考になるとの事でした。

最後に講師の結びの言葉がとても印象的でこれは薬剤師全員が考え直す必要があると思ったので、ご紹介します。

- ・ 医師は薬の処方をしますが、色や形はおぼえていません。
- ・ 患者さんは診察室では言わない本音を薬局で言うかもしれません。
- ・ 医師の説明だけではピンとこないこともお薬を渡す時に再び言われるとピンときます。
- ・ 薬剤師は医療職だから病気についての知識もあるはずだと患者さんは思っています。（医師もそう思っているのでしょうか？）
- ・ お薬手帳を渡す時に知識も少しだけ手渡してください。